



宇品の港から似島を望む

早く行くのがいいと思い焼けた町を、男の子の親を知っておられた方が話されていた、今の安佐南区の古市を訪ねてやっと探して行ってみたが来ていないということでした。そこから、古江の方にその男の子のお父さんの弟のお嫁さんがおられるということで行くことにして、探して探してやっとたどり着き、お父さんの弟もひどい火傷をしていましたが、男の子を預けてようやく一人になりました。

これからどうしようかと考え

て、暑い中兄が観音にいたので行くことにしました。観音の方では、水道管が破裂している所で、今考えると二十歳の娘のする事ではないですが、あまりにも暑いので頭から水をかぶったりしました。

白いテントがあつたので、ふと覗いて見ると次兄と父がおつて、やっとめぐり会えることができました。

翌日の9日は、長兄が火傷をしてどこかに収容されたということで、似島にいるのではないかと探しに行きましたが会えませんでした。

帰りの船が、港から兵隊さんを大きな船に乗せる団平船で、おおかた宇品の港に着こうかという時に、アメリカの飛行機の機銃掃射を受けて、弾が海にビシビシッ：音が聞こえるんです。「頭を伏せて下さい」と船は右に左に進んで、私はもうこれが最後と思った時に、港から煙幕が張られ



比治山の生徒が多数被爆死したところに建つ慰霊碑

てようやく港に着きました。

8月9日長崎に原爆が落とされた日でした。

そろそろ長くなりますので、終わりにしたいと思いますが、私のいとこが東京から疎開で、私の家から比治山高女に通っていました。

このあいだテレビで、比治山高女の岡さんが亡くなられた報道がありました。岡さんは「広島が全滅」と第一報された方として知られていますが、いとこは岡さん

と同じ広島城にあった師団司令部の通信に派遣されていました。岡さんは夜勤で助かられたのですが、いとこは交代前の朝礼中に被爆して、ほんとにほんとにやさしい娘だったのですが、7日の夜に亡くなりました。

このあいだ同じ15才の、皇太子ご夫妻の長女愛子さまの書かれた「平和の願い」という卒業記念作文が新聞に載りましたが、同じ15才で72年経った今、宮中でお育ちになった愛子さまが、「空が青いのは当たり前ではない……」このようなすばらしい平和を願う作文を書いて下さって、むなしく死んでいったところも何とか浮かばれるのではないかと思います。

私が生まれてからずっと20才まで毎日、非常時という言葉が頭から離れませんでした。小学校に上がる頃に満州事変、そのうちに515事変そのうちに226事変そのうちに日中戦争そのう



千田通りの写真（★印の場所にあった木造2階建のご自宅が被爆されました）

ちに太平洋戦争、そして原爆が合
い戦争が終わりようやく平和な
世の中になりました。

みなさんいつまでも平和が続
きますよう、気をつけて戦争のな
い国に致しましょう。

長いあいだ聞いて下さってあ
りがとうございました。これで失
礼します。

2017年7月29日

ふりかえりの塔慰霊祭

弘法 愛子

追記

お話が終わって、参加者から「ご
家族はみなさんどうだったのだ
でしょうか。弘法さんご自身は後遺
症とかはなかったのでしょうか。」
のような質問がありました。

兄が亡くなり、東京から来てい
たいとこの女の子が亡くなりました。
た。

私はガラス傷がすべて化膿し
て、付ける薬もない状況で山口県
の叔母の家に行きました。叔母の
家にはどくだみ草が納屋の軒にた
くさん干してあり、そのどくだみを
煎じて飲み、そして農家でしたか
ら新鮮な野菜を食べて、たくさん
あったどくだみ草が無くなる頃に
傷が癒えました。

後日語り部のお礼と合わせて、
聞き取れなかった所・もう少し聞き
たい所を尋ねに訪問しました。

父の云うには、私の座っていた
座敷より3mばかり離れて一段低い
事務所で来客と話していたら、突



鷹野橋より南大橋を望む（7日の夜寝た防空壕は★付近に入口がありました）

然家が倒れかかるようで、あわてて私
の上におおいかぶさったようです。故
に父は頭から背中にかけてガラス傷で
した。私もその時頭にガラス片が刺さ
り血まみれになったようです。

兄（11歳上）は日赤の北側の方で
町内の方と、建物疎開で取壊しに参加
し火傷後、宇品から似島・金輪島を探
したけれど見あたらず、最終的に大竹
の木野小学校に連れて行かれ、11日
朝亡くなりました。

7日の仁保から千田町への帰途、共
済病院の横の空き地に長机が置かれ、
3、4人座って戸板にのせられ運ばれて

くる死体の確認をしており、少し離れ
たところに井桁に組んで置かれた木
の上に死体を、ころころと投げ
ようにおかれていたのを見ても、もう
何の感じもなかった。

7日の夜寝た防空壕は、今の千田町
二丁目の鷹野橋に近い焼肉大学あたり
に入口がありました。

私の育った家は藤井で、隣の男の子
の家は吉田さんで、隣の男の子は、小
学校の一年生でした。その後44歳で
亡くなりました。

おりづるモニュメント

御幸橋西側に建てられた折り
鶴がシンボルのモニュメントに
は、設置に携わられ、3年前に
亡くなられたご子息寛三さんの
名が残る。

